

IMAGINE ROTARY

2022-23年度 RI会長／ジェニファー・ジョーンズ
RI.D2590ガバナー／志村 雄治
横浜旭RC会長／安藤 公一

「想像してください、私たちがベストを尽くせる世界を。
私たちは毎朝目覚めるとき、その世界に変化をもたらせると知っています。」

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NUTS1階／〒241-0821
TEL.045-465-6702／FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 二俣川相鉄ライフ 4Fコミュニティサロン
例会日 毎週水曜日／12時30分～1時30分



横浜市幼稚園協会へエコペーパー石鹸配布



ガールスカウトとクリーン作戦



鎌倉・江の島へ親睦旅行

2022年11月2日 第2483回例会 VOL.54 No.16

- 司会 SAA 岡田 隆
- 開会点鐘 会長 安藤 公一
- 出席報告

会員数	20名	本日の出席数	16名
本日の出席率	80.00%	修正出席率	78.68%

- 本日の欠席者／東谷、宋
- オンライン出席者／二宮、福村
- 他クラブ出席者／新川（地区）
- 誕生日祝 安藤会員 11.4



■会長報告 安藤 公一

今月は、ロータリー財団月間です。増田さん
本日のロータリー財団フォーラム宜しくお願
い致します。

このところ秋らしい天候が続いており、明け
方は10℃近くまで気温は下がるものの、日光
が十分に届くようになると20℃越えの爽やか

な陽気となります。富士山も先週前半から雪化
粧が始まりました。このくらい穏やかに季節が
進んで行ってくれば、身体も心も順応しやす
いのですが、近年穏やかな期間が短くなってき
ているような気がするの私だけではないと思
います。急激な気候変動は、激甚災害を引き起
こし生活環境に大きな被害を与えます。一人一
人の今の自分ができる地球環境のための行動を
意識して生活して行くべきと今更ながら思いま
す。毎週繰り返して申し上げていますが、新型
コロナも含め体調の管理に気を付けていきたく
と思います。

先週29日に韓国ソウルの梨泰院でおきた
156人もの若者が死亡した群集事故は悲惨な事
でした。二度と同様な事が起きぬよう今後の対
策を徹底して欲しいと心より思います。亡くな
られた方々のご冥福を祈るばかりです。

プロ野球では日本シリーズオリックスが、日
本一の栄冠を勝ち取りました。おめでとうございます。
リリーフ投手の充実が凄かった。今週
日曜日に最終日を迎えた女子ゴルフでは金田久
美子選手が実に11年半ぶり2回目の優勝を飾
りました。派手な見た目とは裏腹に地道に努力
を続けて諦めなかったことがこの2勝目に繋
がったと記事にありました。一方。サッカーで

は三浦カズ選手がJFLの最年長ゴール記録を書き換えました。55歳で今も現役を続けることに敬意を表せずにはられません。サッカーワールドカップが今年20日より中東のカタールで開催され、日本代表の選出が昨日発表されました。目標のベスト8目指して頑張っ
て欲しいものです。

ラグビーは、先週お伝えした通り土曜日に国立競技場でジャパンはニュージーランド・オールブラックとテストマッチを行い、31対38で7点差での惜敗となりました。来年秋にフランスで開催されるワールドカップまで順調に成長し続けることを祈っています。この試合の入場者数が65,188名で過去最多を記録できたことはとても誇らしく感じています。

▷地区関係

1) 11月11日-12日開催の地区大会です。9日の例会が12日へ移動となりますので、お間違いの無きようお願いいたします。

2) 財団奨学生の募集開始のお知らせがきました。グローバル、地区共に応募期間は10/31~来年1/23となっています。

3) RLIパートⅢが11月27日(日)に開催されるという案内がきました。新川さんをご出席予定です。

▷クラブ関係

4) 第5グループ佐藤ガバナー補佐より、今後のガバナー補佐の順番に関する合意書がきました。当クラブは2030-31年度の担当となり後8年後になります。

5) 以前お話した畠山重忠関連の研究が続けられている旭区在住の加藤明彦様より「横浜の発展」~黒船と鉄道~という題の講演を万騎が原ケアプラザで11月10日(木)10時~11時半に開催するので、ご興味ある方は如何ですかというご案内を頂きました。ご興味のある方は、万騎が原地域ケアプラザ045-362-1222までお申し込みください。

6) 本日、理事会を開催します。例会終了後、理事の方お集まりください。

■幹事報告

新川 尚

1) 例会臨時変更のお知らせ

○神奈川東 RC

12月23日(金)→25日(日) 夜間例会

「年忘れ家族会」

12月30日(金)休会

令和5年

1月6日(金) 休会

1月13日(金)→12日(木)

1月27日(金)→23日(月) 夜間例会

「神奈川 RC・神奈川東 RC 合同賀詞交歓会」

■ニコニコ BOX

安藤 公一/①増田さん、本日の財団フォーラム宜しくお祈いします。②誕生祝いをありがとうございます。66歳になりました。

新川 尚/増田さん、今日のフォーラム宜しくお祈いします。

増田嘉一郎/ロータリー財団フォーラムです。私の卓話でご了承ください。

佐藤 利明/増田先生、本日のR財団フォーラムよろしくお祈いします。

田川 富男/増田さんロータリー財団の活動教えて下さい。宜しくお祈い致します。

五十嵐 正/R財団フォーラム、増田さんよろしくお祈いします。

佐藤 真吾/財団フォーラム。増田委員長よろしくお祈いします。

岡田 隆/増田さん、本日のフォーラムよろしくお祈い致します。

北澤 正浩/増田さん、本日のR財団フォーラムよろしくお祈い致します。

中谷 逸希/ロータリー財団のお話し楽しみにしています。

市川 慎二/増田さん卓話宜しくお祈いします。

■卓話/ロータリー財団の活動

ロータリー財団委員会 委員長 増田 嘉一郎

1. はじめに

(1)ロータリー財団フォーラムである。今回は、皆さんからの寄附が、具体的に何に使われてい

るかを中心に話を進めていくことにした。

2021年度－22年度のロータリー財団への全世界からの寄附金は、4億



3,400万ドルということである。1ドルを端数のない140円で換算すると（以下同じ相場を使う。）、607億6千万円である。支出をみるとポリオに214億4千万円でているので、もしかしたらロータリー財団の倍額寄附するビル&メリンダ・ゲイツ財団からの寄附を一旦ロータリー財団で受入れて、1億5千万ドルとして、ポリオのために提供しているのかもしれない。総額607億円と言われてもピンとはこない数字であり、何か比較できる数字と思った。地方都市の収支予算を探してみたところ、小田原市の一般会計が694億円（全会計合計は1,625億円）、東京都の多摩市で一般会計630億円ということであるから、これらの市と同規模のお金が動くということである。

国際ロータリーは奉仕の理念を追求する組織であり、ロータリー財団は奉仕の実践を行う組織である。車の両輪である。

ロータリー財団は寄附によって支えられ、集った寄附はロータリー財団の補助金となり、助けを必要とする地域社会に持続可能な変化をもたらす活動に役立てられるが、その後、支援を受ける側が自ら自立し、自ら行動し運営する側に変っていくことが、ロータリー財団活動での支援の最終的な目標となる。

ロータリー財団は「大切なのはお金でない。そのお金で何かできるのかが重要だ」といっている。マザーテレサが「私は世界を変えることはできないが、水面に石を投じて多くの波紋を広げることができる」と言った。財団こそがその石なのである。この石を投じて、心と頭を使ってさざ波から大きな波を起こしていく、というのが財団の役割なのである。

(2)各会員がロータリー財団に寄附したお金は、3年間プールされ、その一部は投資に、一部は恒久基金として活用され（元本の90%を確保して投資）、それぞれの運用益が加算され、3年後に活動資金（恒久基金の元本を除く。）として分配される。活動資金は、ロータリー財団の世界共通の財布であるワールドファント（WF）と地区の財布である2590地区の財団活動資金（DDF）として、概ね半分ずつに割り振られる。この分配することをシェアシステムと読んでいる。ガバナーがロータリー財団への寄附にこだわるのも、3年後のガバナーの活動資金に結びつくからであり、3年後のガバナーに十分な活動ができないというらみを買いたくないからである。

(3)ロータリー財団のプログラムは、大きく分けると、グローバル補助金、地区補助金、奨学生事業（資金はグローバル補助金、地区補助金からでる。）、ロータリー平和センター、ポリオプラス、その他の補助金となる。

ポリオプラスは、ここ何年か、新川地区委員長の卓話は何回かあったので、皆さんは十分に理解されているものである。今日はそれ以外の活動を紹介していく。皆さんの寄附したお金がどのように使われているかの紹介である。

2. グローバル補助金

(1)支援の対象

国際ロータリーが提唱する7つの重点分野に該当することを前提として、2地域、つまり実施国、援助国の双方のロータリークラブが提唱を行うことによる共用の大規模プロジェクトである。その中で今回は、①地域社会の経済的発展と、②基本的教育と識字率向上、③水と衛生、④母子の健康の4つの例を紹介する。

その他に⑤平和構築と紛争予防、⑥疾病予防と治療、⑦環境の保全がある。

(2)地域社会の経済的発展

2018年から2020年にかけてオーストラリアで発生した大規模な山火事被害からの経済的回復を支援するために、総額28万ドル（3920

万円)に達する3件のグローバル補助金プロジェクトが展開された。大規模な山火事は、深刻な干ばつ、地球の温暖化、天候不順などが重なり、地域社会に壊滅的な被害をもたらした。森林火災を経験していたカナダのロータリアンは、この災害に最も効果が上るのは、ロータリー財団を通じて支援することだと分かっており早く動いた。その後他の国々のロータリークラブや台湾のロータリークラブと地区が参加し、被災した農家の経済的回復のためのプロジェクトが展開された。

ロータリーの支援を受けた農家は、「外国のロータリークラブが、私達のような小規模農業地帯を支援してくれるとは信じられなかった。支援を受けられ復興に歩み出せたことを心から感謝します。」と感謝の手紙の中で述べている。この復興に歩み出したということが、ロータリー財団が日々世界中の行っていることであり、ロータリーの会員の支援に値する理由である。

(3)基本的教育と識字率向上

読み書きが多くの人にとって貧困脱出の第一歩である。できることを行動に移すためには、まず援助を必要とする地域社会とその地域社会特有の問題を理解し、地域の住民やさらに援助地域のロータリークラブと協力関係を構築する。次に経験のある他のクラブと意見交換し、さらに実施地域や援助地域でのロータリー以外の人々や団体と連携する。グローバル補助金プロジェクトに限らず地区補助金プロジェクトをも含めて補助金プロジェクトという形で私たちが提供する解決策は、その地域社会に合わせて設計される。ロータリーの補助金プロジェクトとして承認されたものであるなら、練りに練られ戦略的で何より持続可能である。読み書きの能力という贈り物であるなら、一度きりの書籍寄贈という形ではなく、読み書きの能力が、時間をかけて地域社会を変えていく計画の形で贈りたいのである。

これ迄、地域レベルから全国レベルまで、数

え切れないほどのロータリー識字率向上プログラム(プロジェクトの集合体、以下同じ)が展開された。また、一昨年来、新型コロナウイルスの感染が広がると、多くのクラブが立ち上がり、ノートパソコンの提供など、オンライン学習の支援を行った。ロータリアンは、たゆみなく際限なく課題の解決策を提供し続ける。基本的教育と識字率向上プロジェクトに懸けるロータリーの情熱はこれまでもよく知られている。その情熱は解決策を必ず実現させる実行力となり、読み書きができない人が貧困を抜け出して、よりよい人生へ向かう第1歩を踏み出せるように後押ししている。

2021-22年度、ロータリー財団が承認した基本的教育と識字率向上プロジェクトのグローバル補助金は、速報値で104件、総額630万ドル(8億8,200万円)に上る。オーストラリアのクィーンズランド州のバスター・グバナーであるディック・ウォーカーさんは、ロータリー財団のマッチング・クラウド・サービスを使って集中言語能力助長ソフトウェアを開発した。このメソッドは、今では世界中で教育に採用されている。地域社会レベルでも、各クラブでは多くの子どもたちの人生を変えた図書寄贈運動が行われている。ロータリーは多数の識字率を向上させるプロジェクトを経験している。教育資料を提供するのであるなら、教師の教授スキルを高める訓練を実施する。あるいは、父兄、地域社会の住民を集めて教育の重要性の啓蒙活動をする。その結果、基本的読み書きという目標が達成されれば、さらにそのプログラムを活用し、応用し、新たなプロジェクトを実行して世界を変えるのである。

(4)水と衛生

今、我々は水があたり前のものだと思っている。それは我々が、安全な水が豊富にある恵まれた地域に暮らしているからである。しかし、国連の推定では、世界中には20億人(地球上で4人に1人)が安全な飲料水のない暮らしを送っている。安全なトイレや衛生システムがな

く暮らしている人が世界の人口の約半分おり、3分の1の人が石鹸や安全な水が使える手洗い場さえない生活をしている。ロータリー財団はこの状況を打破するために、重点分野の中でも最大規模の資金を水と衛生プログラムに提供している。2014年から世界のロータリークラブは水と衛生関連のグローバル補助金プロジェクトを2,100件以上も実施し、ロータリー財団資金1億5,400万ドル（215億6千万円、7年間として平均年30億8千万円）を費やしている。

井戸を掘ったり給水設備を贈呈するならば、住民に参加してもらって参加意識を高めたり、清潔な水がどれほど健康に必要なかの啓蒙活動をする。

さらにアメリカ合衆国国際開発庁（U S I D）との連携により、ガーナやウガンダなどの国々で、衛生問題の国家規模の戦略的プログラムの資金として、ロータリー財団とU S I Dとの合計で、800万ドル（11億2千万円）を拠出している。開発を専門とするU S I D職員の技術的専門的知識に、ロータリー会員の地元におけるリーダーシップとを支援活動に組み合わせて、地域社会で実用的かつ提携可能な解決策を模索している。ロータリーには人材がいる。一人一人の力を加えて、この問題を解決していく。

(5)母子の健康

オーストリア、ドイツ、ナイジェリア、スイスのロータリークラブの会員は、ナイジェリアの母子を支援する夢を実現するために、複数の団体と協力して望まない出産の件数を減少させ、母子の死亡率を低下させるための複数年にわたる大規模なプロジェクトを立ち上げた。ロータリー財団のグローバル補助金事業となり、ナイジェリアの全36州で医師、看護師、助産師の養成を行っている。

どのようなプロジェクトも、ロータリー会員が課題に対して行動を起こしたことから始まる。ロータリーの会員が、学校に個室のトイレがないために思春期の少女が不登校となったと

いう現実に直面した。食糧不足に直面している家族や読み書きができない子どもに直面した。蚊を原因とする健康問題を抱えている地域社会に直面したのも、ロータリーの会員である。彼らはロータリーの一員として、このように課題に直面したなら行動を起こすのである。

(6)プロジェクトの発案

グローバル補助金プロジェクトは、まず発案から始まる。それは、海外のクラブとの対話のできるパートナーとしての関わりの中から、プロジェクトの種を探すことになる。グローバル補助金プロジェクトの課題を見つけるという意識を頭の隅にでも置いておいて欲しい。具体的には、

ア) 海外のクラブと交流する中で、現地の気になる問題を汲み取る。

イ) 海外のクラブのロータリアンと交流する中で、現地の援助を必要とする課題を探す。

ウ) (我々にとって可能性が高いのは、) マスコミ情報の中に海外のクラブが属する国のニーズを発見する。

3. 大規模プログラム補助金

(1)ロータリー財団では、世界的基準でのニーズに合わせた新たな補助金を構築している。世界各地よりエントリーされたプロジェクトから1口だけ選出され、200万ドル（2億8千万円）の補助金が拠出されるというものである。

ロータリー財団の活動は、具体的、現実的、そして明確な目標に向かって着実に前進し、その進捗は目に見える形で表現される。成功が目に見えることが、ロータリーの新しい大規模プログラム補助金の一番重要なことである。

(2)最初にこの補助金を受けたプロジェクトは、2020-21年度の「マラリアのないザンビアのためのパートナー」というプロジェクトで、ザンビアの2つの州にある罹患率の高い10の対象エリアで、マラリアを90%削減することを目指している。これは不可能ではない。ロータリーの会員と現地のパートナーが、ザンビアの他の地域で実施してマラリア削減に成功したコミュ

ニティ・ヘルス・ワーカー（市民健康アドバイザー）の制度をモデルにしたものを立ち上げたのである。

ザンビアでのマラリア削減を推進するために、ロータリー財団、ワールドビジョンUSA、ビル&メリンダ・ゲイツ財団がそれぞれ200万ドルをこのプロジェクトに寄附している。ロータリー主導のこの事業は、人々の命を救うための診断と治療を、すでに数多くの村で行っている。昨年度は、新しいコミュニティ・ヘルス・ワーカー1300人以上が研修をうけ、各地のヘルスセンターに派遣されている。また、医療用品が最も必要とされるところに確実に届けられるようデータの収集と分析も行っている。こうした作業は実施しているパートナーとザンビア国内のロータリークラブ、ローターアクトクラブとの間の緊密な連携の下で行われている。目標に向けた最初のステップが始まっている。

4. ロータリー平和センター

(1)ロータリー平和センターは、国内外での紛争解決のため、世界平和に貢献する未来の国際的リーダーを育てることを目的に1999年に創設され、2002年に奨学金制度が設けられた。毎年、世界中で最高130名までの人材が選出され、世界6か国、7大学に設置されたロータリー平和センターに派遣された学生は、それぞれの分野での研究を行う。日本では国際基督教大学に設置されている。平和センターで学ぶ学生達をロータリー平和フェローと呼ぶ。

(2)ロータリー平和センターの設立は、ロータリーの平和構築活動の新たな章の幕開けとなった。この革新的プログラムでは、平和フェローたちが今日も紛争の根本的原因を学術的に深く探求すると同時に、実際の問題を解決する実践的な戦術を編み出している。最初に創設された平和センターは、平和的解決を必要としている地域であるウガンダの首都カンバラのマケレレ大学に創設されたのであり、ここでは学んだばかりの知識とスキルを、若き平和構築者たちが実施に生かそうとしている。

現在、中東か北アフリカで8番目のセンターの候補が検討され、2024年にも創設が計画されている。この平和センターは、創設された地域での平和構築に従事する次世代の平和構築者を育てる基盤となり、世界的な平和教育を推し進めるロータリーにとって、新たな大きな一歩となる。さらに次の目標としては、2030年までに中南米でも平和センターを創設する。ロータリーは、あらゆる活動において平和と理解を推進する。ロータリーと財団の持続する力と、そして平和に尽力し続ける力が、皆が誇りに思うもの、皆が支えるもの、そして皆が今後も維持していくものなのである。

(3)日本のロータリアンは1人当たり年間15円を平和センターに協力している。日本からの平和フェローへの応募者が少ないので、志ある若者と出会ったら、是非応募を進めていただきたい。なお、11月12日の地区大会では、平和フェロー学友5名による平和フォーラムが開かれるとのことなので、関心のある方は事務局まで申出てください。

5. 地区補助金

2020-21年度当クラブ「幼稚園・保育園へのペーパーソープ寄贈」

2023-24年度は2023年3月中旬締切りである。

6. 奨学生事業

(1)グローバル奨学生 海外の大学院レベル 奨学金額は3万ドルから5万ドル（420万円～500万円）

(2)地区奨学生 海外の大学か大学院レベル 奨学金額は上限2万7千ドル（378万円）

派遣クラブは、学友会分担金1万2千円×5年間を負担する。

7. その他の補助金

災害対策等で使われており、2018-19年度はコロナ対策のためにフェイスシールドを寄贈した。

■次週卓話 岡田会員一般卓話